

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178番地		
自己評価作成日	平成22年11月14日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172500247&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのゆとりのある中庭には季節の花が咲き誇り四季を肌で感じ取ることが出来ます。天気の良い日などには庭に出て歌を歌いながら散歩したり、花の名前をあてたりしたり、ベンチに腰掛けてお茶を飲んだりしながら楽しい時間を過ごして頂いています。また、畑にはなす、トマト、かぼちゃ、みかんなど季節ごとの野菜、くだものなどが栽培されて収穫した野菜などはホームの食事のメニューに取り入れています。季節ごとに手作りのお弁当を持って花見・紅葉を、また、利用者様のご家族様と夏祭り、クリスマス会、家族会など行事を開催して職員も交えたコミュニケーションを図っています。医療に於いては主治医である内科医、歯科医、精神科医と常に連携を取りながら素早い対応が出来る体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2棟のユニットは、それぞれの利用者が個々の能力を発揮できるようにと行事は別々に行い、家族も参加しやすい形態としている。中庭は、ボランティアと利用者が一緒に造った寄せ植えで季節の花に囲まれ、自由に庭に出て鑑賞したり、野菜や果物の栽培や収穫を楽しむ工夫をしている。職員が意欲を持てるように役割分担を明確にし、資格手当てが付与され年1回の研修旅行もある。事務局長が地域で認知症の講話をしたり、最新の情報を家族に伝えており、地域の認知症相談の拠点施設としての役割も担い、地域に開かれたホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であってもその人らしい生活が送れるよう認知症ケアの向上を意識しながら実践につなげる。地域との関係をより深め共に支えていく地域づくりを築いていけるよう努める。	ホーム独自の理念をつくり、ホームの玄関に掲示しているが、意識付けて日々の実践につなげていない。	ミーティングや朝の申し送り時等に、常に意識づけができるような機会をつくり、理念を共有し、日々の実践につなげていただきたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、ボランティアなどを通して地域住民より行事活動、幼稚園、学校行事の参加、作品展示会に呼びかけていただいたりして積極的に参加するよう努めています。	地元の老人会・ボランティア・小学生が随時訪問し、利用者との会話や花作り・音楽活動等を日常的に行っている。近隣の寺行事や生き生きサロンにも利用者と一緒に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの講習会や会議に関する相談などを積極的に受け入れるようにしている。 学生の職場体験などを受け入れて認知症の人を理解をして頂く。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事報告、ホームでの暮らしぶりを報告して、その中からいろいろな情報交換や今後予定している行事予定を尋ねながら出来る限り参加し、地域との関係を繋げている。	自治会・民生委員・行政関係者・家族会が参加し、ホームの行事報告に併せて、様々な意見や助言が得られている。地元からも協力が得られ、サービスの向上に向けた関係作りの場になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行なう研修などに積極的に参加し意見交換したり、福祉高齢化窓口などに出向いて尋ねたりしながら情報の提供を行い連携体制を築くようにしている。	広域連合が主催する研修に職員が参加している。利用者の面談等に行政職員が月1回は来訪し、サービス提供にかかる相談ができる関係が日頃からできている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」スローガンを掲示してある。社内研修などを通じて全職員が認識するようにしている。止む得ず行なう時は家族の同意を得るようにしている。一定期間様子を見ながら今後の検討を重ねる。	管理者は身体拘束の弊害を深く理解し、職員と常に検討しながら拘束しないケアを実践している。玄関は夜間を除き開放され、中庭にも自由に行き来ができている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	様々な研修を通じてどのような行為が虐待なのかを理解し、職員同士でホーム内で虐待行為がないのかお互いに話し合いどんな小さな虐待でも見逃さないよう努める。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度について研修などを通じて学び利用者に必要な選択を提案している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から利用者及びその家族と話し合う機会を持ち契約内容について十分に理解されるまで説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催してはそれぞれ皆さんの、意見・要望などを傾聴して、記録に残し、掲示しています。運営推進会議などを通じて今後の運営の改善策に反映させるよう努めています。	日々の関わりから利用者の意見を聞いたり、家族会の雑談や来訪時に意見を聞きだす努力をしている。要望や意見は記録で残し、次の運営推進会議や家族会議に報告し、ホームの運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体的なミーティングのときに職員からの話を聞き運営についての意見を聞くように努めている。	月1回のミーティングは夜間開催で全員参加とし、意見や要望を聞く努力はしている。しかし、ホームの運営や改善に向けた話し合いがされていない。	日頃から気兼ねなく管理者と意見交換ができる場や時間をつくり、前向きな意見を職員から引き出す工夫をされたい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりを評価しその能力に見合った仕事をしてもらうようにしている。評価の高いものには給与面などで反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各能力に合わせて研修を受けてもらったり資格取得の場合は手当てを出している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、会を通じて、様々な研修、勉強会に参加したりしています。今後も、積極的に他のG・Hを訪問して見聞を広め意見交換をする機会を持てるように取り組みたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人、ご家族様に直接面談し、ホームでの暮らしにあたって不安、困っていること、要望などを聞き取りしましてニーズを把握し、安心できる関係を築けるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族様がどのような不安、悩みを抱えて、又どんなサービスを要望されているかなどに耳を傾けながらご家族様にも納得して頂けるようなサービス提供に心がけています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様には、面談前後に施設見学などをしていただき、わからないことはその都度、質問していただいています。又、生活全般での困りごとがある場合はそれぞれの行政機関に繋げるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員であったり又、人生の先輩でもあることから認知症の人の介護の考えではなく同じ人間同士が泣き笑いを共にして暮らしていることを意識しながら関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と本人が共に生活されていないだけにホームでの毎日の生活の様子を報告をしたり、写真などを見ていただいたりして職員が家族様との絆をつなぐパイプ役となり支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年2回のイベントにご家族様に参加していただいで食事などを共にしていただいたり、友達、孫など気軽に来訪していただき居室などでお茶を飲みながら会話を楽しんだり、記念撮影などして馴染みの関係の支援に動めています。	家族の協力で墓参に出かけたり、親族や友人の来訪時は、ホールや居室で自由に面会し馴染みの関係が継続できる配慮をしている。入居前の生活歴を考慮し、ホームの畑での花いじりや野菜作りの場を提供している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人にあった介護、支援、声掛けを行っている。利用者同士においても暗黙のルールが出来て、支えあっている様子で見守りながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、それ切りにするのではなく、いつでも相談が出来るように窓口を設けてある。また、他のサービスを受けようと要望するときは情報を提供して今後の生活の支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は何を希望しているのか、普段から耳を傾けて、計画の中に取り入れながら支援しています。困難と思われる希望、意向はそれに変わるものがないか模索しながら検討している。	様々な場面で利用者の希望や思いを聞きだす努力をしている。意思表示ができない利用者には、表情や仕草を見逃さず、利用者が能力を発揮し、意欲につながるよう支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況をご家族、かかりつけ医師、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活ぶり、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることが出来るようしてあります。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンを情報収集から把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は医師、看護師などと相談しながら支援しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ほぼ3ヶ月に1度関係者がきずき気付き、意見などを出し合い介護計画に結び付けています。様態が変わればその都度モニタリングをして現状に必要な介護計画を作成しています。	利用者や家族の意見を聞いて、ケアマネジャー・看護師・担当者が日頃の状況を踏まえ、3ヶ月毎に見直しも含めて介護計画を立てている。身体状況の変化時や要介護度の変更時は随時に見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬確認などが記録されています。記録することにより気付いた事を職員間で情報を共用して介護計画に結び付けています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との外出、買い物、通院などそれぞれに必要なときに本人、ご家族様の状況に合わせて柔軟な支援をしています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長様、民生委員、ご家族様などと連携を取りながら、地元運動会、盆踊りなどの地域の行事など積極的に参加させていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として病院、精神科、歯科医などと協力しながら往診、通院の体勢が整っているが、本人、ご家族様の要望でかかりつけ医で診察を受けられるように支援しています。	内科と歯科の協力医が隔週の訪問診療や歯科衛生士による月1回の口腔ケアを行っている。精神科や眼科等の受診には家族の要望があれば職員が付き添い、結果は家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のどんな些細な変化にも職場内の看護職に伝えて必要ならば主治医により診察を受けられる体勢が整っています。緊急の場合も速やかに受診できるように支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告情報交換を行い、早期退院に向けて病院関係者と話し合える場を支援しています。入院中にも本人の様子を把握するなどして支援を行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について医師とこまめに情報交換して本人、ご家族様の要望を確認しながら話し合いの場を設けて支援しています。様態が急変した場合はその都度対応策を「検討しながら支援します。	今年度は3人の看取りを含め、エンゼルケアにも対応している。重度化、終末期については家族の希望、医師との連携をして容態の変化に合わせて、ホーム全体で対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員であるが緊急マニュアルの研修を受けて身に付けているが今後、全職員に対しても定期的に研修会を積極的に行い、実践力を身に付けて緊急時に備えられるように努めます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生を想定して全職員が避難訓練を実施しています。運営推進会議などで、地域の方にも協力体制をお願いしています。火災報知機はすでに設置されています。スプリンクラーは設置が予定されています。	年2回の避難訓練を地域の方の参加を得て実施している。避難に要する時間を計り、夜間想定訓練も計画している。自然災害に備え食料やオムツ等の備蓄をし、室内の家具は耐震予防器具で固定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のその人らしさを尊重して、その人に合った支援を心がけています。人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。	日々のケアのなかで一人ひとりへの言葉掛けに注意し、利用者の意欲を尊重した介護を提供している。トイレのカーテンも遮光カーテンを使い影が映らないような配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択肢を用意して本人に決定していただけるよう努めています。衣類などはタンスの中から自ら取り出して選んでいただけるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分などで本人の気持ちを大切にしながら1日を自身のペースで過ごしていただけるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望されれば好みの色の染料を購入して毛染めの支援をしています。時には紅を引いてあげますとても喜ばれ、鏡の前で微笑んで見えます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備などで、モヤシの根の除去、芋などの皮むきなど積極的に行なっています。食後の下膳も職員の見守りの中、各自行なえるよう支援しています。	外食でランチやバイキングを楽しんだり、中庭で秋刀魚を焼き季節感を味わっている。また、庭の畑で栽培した野菜を利用し、献立や味付けについての話題を出すなど、食事が楽しめる雰囲気作りに努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量が少量の利用者には栄養補助食品などで補いながら支援しています。水分量は1日1000CC～1200CCC補給できるように工夫しながら支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨き後、職員が確認しながら口腔ケアをしています。就寝前には、義歯を外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックをして適切な治療を受けています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記録欄を設け排泄ごとにチェックして、排泄パターンを掴み定期的に声掛けをしておむつの枚数を減らすように努めています。3ヶ月間、使用枚数の統計をとり、職員が各々自覚して支援しています。	個々の排泄パターンを記録で把握し、適宜の声掛けと誘導によってオムツを使用しないように支援している。使用枚数のデータを取り、利用者の自立支援に向けて職員も努力している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事、おやつなどでヨーグルト、牛乳等摂取。排泄記録を見ながら便秘が続いている時は医師の指導を受けています。又、適度な運動を進めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を希望される利用者以外は入浴時間は決めてあります。入浴前には拒否される人でも入浴すると楽しんで良い気分になられます。洗身出来る人、そうでない人とそれぞれの入浴介助で対応しています。	利用者の希望に合わせ、入浴時間や季節のゆず湯等の配慮をしている。入浴を拒む方にはタイミングを図って声かけし、体調により清拭を行っている。男性職員も多く、利用者の希望により同性介助にも対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、就寝昼寝が出来るように支援しています。不眠、昼夜逆転や夜間の不眠等があるならば日中の運動などで工夫したり、深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、のみ残しがないか確認します。職員が、一人ひとりの服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬が生じた場合は看護師に報告。適切な判断を仰いでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ喜びを普段の生活から把握してその人に合った支援をしています。カラオケであったり、塗り絵又はお経であったりしますが、その人にあった楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見、秋には紅葉など季節感を肌で感じられることを計画して家族も同行して出かけられるよう努めています。希望などを聞きながら、ランチ喫茶店でモーニングを楽しんだりして支援しています。	車イス対応の車を借りて、多くの利用者が季節のドライブに参加出来るよう努力している。近くの喫茶店でランチやモーニングを楽しんでいる。また近辺の散歩や敷地内の花や畑を、見てまわる事を好む利用者もある。	

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にあわせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けれるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族様に届くように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見たり窓から花を眺めたりして過ごせるように支援しています。寒い季節にはホームコタツを敷き、アットホームな雰囲気でも過ごせるよう工夫しています。	壁には利用者の作品を飾り、リビングにはソファを置き、利用者がゆったりと腰掛けくつろいでいる。広い庭には沢山のプランターに季節の花を植え、畑には利用者と一緒に育てた野菜、みかんの木もあり収穫を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々に、自由にカーペット、椅子など持ち込むなどして気楽に過ごせるように支援しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物、又思い出の写真など自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中で過ごせるように工夫しています。	ホームが用意したベッド・筆筒は全て色や形の違うもので個性的な居室作りをしている。壁やチェストの上には家族の写真や小物、入り口に暖簾を掛けるなど親しみがあり、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の「もてる力が発揮できる」と掲げてあるように利用者の身体状況に合わせて安全にまた生活の質が低下しないよう工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178番地		
自己評価作成日	平成22年11月14日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172500247&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であってもその人らしい生活が送れるよう認知症ケアの向上を意識しながら実践につなげる。地域との関係をより深め共に支えていく地域づくりを築いていけるよう努める。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、ボランティアなどを通して地域住民より行事活動、幼稚園、学校行事の参加、作品展示会に呼びかけていただいたりして積極的に参加するよう努めています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの講習会や会議に関する相談などを積極的に受け入れるようにしている。 学生の職場体験などを受け入れて認知症の人を理解をして頂く。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事報告、ホームでの暮らしぶりを報告して、その中からいろいろな情報交換や今後予定している行事予定を尋ねながら出来る限り参加し、地域との関係を繋げている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行なう研修などに積極的に参加し意見交換したり、福祉高齢化窓口などに向いて尋ねたりしながら情報の提供を行い連携体制を築くようにしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」スローガンを掲示してある。社内研修などを通じて全職員が認識するようにしている。止む得ず行なう時は家族の同意を得るようにしている。一定期間様子を見ながら今後の検討を重ねる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	様々な研修を通じてどのような行為が虐待なのかを理解し、職員同士でホーム内で虐待行為がないのかお互いに話し合いどんな小さな虐待でも見逃さないよう努める。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度について研修などを通じて学び利用者に必要な選択を提案している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から利用者及びその家族と話し合う機会を持ち契約内容について十分に理解されるまで説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催してはそれぞれ皆さんの、意見・要望などを傾聴して、記録に残し、掲示しています。運営推進会議などを通じて今後の運営の改善策に反映させるよう努めています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体的なミーティングのときに職員からの話を聞き運営についての意見を聞くように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりを評価しその能力に見合った仕事をしてもらうようにしている。評価の高いものには給与面などで反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各能力に合わせて研修を受けてもらったり資格取得の場合は手当てを出している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、会を通じて、様々な研修、勉強会に参加したりしています。今後も、積極的に他のG・Hを訪問して見聞を広め意見交換をする機会を持てるように取り組みたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人、ご家族様に直接面談し、ホームでの暮らすにあたって不安、困っていること、要望などを聞き取りしましてニーズを把握し、安心できる関係を築けるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族様がどのような不安、悩みを抱えて、又どんなサービスを要望されているかなどに耳を傾けながらご家族様にも納得して頂けるようなサービス提供に心がけています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様には、面談前後に施設見学などをしていただき、わからないことはその都度、質問していただいています。又、生活全般での困りごとがある場合はそれぞれの行政機関に繋げるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員であったり又、人生の先輩でもあることから認知症の人の介護の考えではなく同じ人間同士が泣き笑いを共にして暮らしていることを意識しながら関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と本人が共に生活されていないだけにホームでの毎日の生活の様子を報告をしたり、写真などを見ていただいたりして職員が家族様との絆をつなぐパイプ役となり支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年2回のイベントにご家族様に参加していただいで食事などを共にしていただいたり、友達、孫など気軽に来訪していただき居室などでお茶を飲みながら会話を楽しんだり、記念撮影などして馴染みの関係の支援に勤めています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人にあった介護、支援、声掛けを行っている。利用者同士においても暗黙のルールが出来て、支えあっている様子で見守りながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、それ切りにするのではなく、いつでも相談が出来るように窓口を設けてある。また、他のサービスを受けようと要望するときは情報を提供して今後の生活の支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は何を希望しているのか、普段から耳を傾けて、計画の中に取り入れながら支援しています。困難と思われる希望、意向はそれに変わるものがないか模索しながら検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況をご家族、かかりつけ医師、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活ぶり、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることが出来るようしてあります。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンを情報収集から把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は医師、看護師などと相談しながら支援しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ほぼ3ヶ月に1度関係者がきずき気付き、意見などを出し合い介護計画に結び付けています。様態が変わればその都度モニタリングをして現状に必要な介護計画を作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬確認などが記録されています。記録することにより気付いた事を職員間で情報を共用して介護計画に結び付けています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との外出、買い物、通院などそれぞれに必要なときに本人、ご家族様の状況に合わせて柔軟な支援をしています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長様、民生委員、ご家族様などと連携を取りながら、地元運動会、盆踊りなどの地域の行事など積極的に参加させていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として病院、精神科、歯科医などと協力しながら往診、通院の体勢が整っているが、本人、ご家族様の要望でかかりつけ医で診察を受けられるように支援しています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のどんな些細な変化にも職場内の看護師に伝えて必要ならば主治医により診察を受けられる体勢が整っています。緊急の場合も速やかに受診できるように支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告情報交換を行い、早期退院に向けて病院関係者と話し合える場を支援しています。入院中にも本人の様子を把握するなどして支援を行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について医師とこまめに情報交換して本人、ご家族様の要望を確認しながら話し合いの場を設けて支援しています。様態が急変した場合はその都度対応策を「検討しながら支援します。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員であるが緊急マニュアルの研修を受けて身に付けているが今後、全職員に対しても定期的に研修会を積極的に行い、実践力を身に付けて緊急時に備えられるように努めます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生を想定して全職員が避難訓練を実施しています。運営推進会議などで、地域の方にも協力体制をお願いしています。火災報知機はすでに設置されてます。スプリンクラーは設置が予定されてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のその人らしさを尊重して、その人に合った支援を心がけています。人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択肢を用意して本人に決定していただけるよう努めています。衣類などはタンスの中から自ら取り出して選んでいただけるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分などで本人の気持ちを大切にしながら1日を自身のペースで過ごしていただけるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望されれば好みの色の染料を購入して毛染めの支援をしています。時には紅を引いてあげますとても喜ばれ、鏡の前で微笑んで見えます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備などで、モヤシの根の除去、芋などの皮むきなど積極的に行なっています。食後の下膳も職員の見守りの中、各自行なえるよう支援しています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量が少量の利用者には栄養補助食品などで補いながら支援しています。水分量は1日1000CC～1200CCC補給できるように工夫しながら支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨き後、職員が確認しながら口腔ケアをしています。就寝前には、義歯を外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックをして適切な治療を受けています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記録欄を設け排泄ごとにチェックして、排泄パターンを掴み定期的に声掛けをしておむつの枚数を減らすように努めています。3ヶ月間、使用枚数の統計を取り、職員が各々自覚して支援しています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事、おやつなどでヨーグルト、牛乳等摂取。排泄記録を見ながら便秘が続いている時は医師の指導を受けています。又、適度な運動を進めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を希望される利用者以外は入浴時間は決めてあります。入浴前には拒否される人でも入浴すると楽しんで良い気分になられます。洗身出来る人、そうでない人とそれぞれの入浴介助で対応しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、就寝昼寝が出来るように支援しています。不眠、昼夜逆転や夜間の不眠等があるならば日中の運動などで工夫したり、深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、のみ残しがないか確認します。職員が、一人ひとりの服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬が生じた場合は看護師に報告。適切な判断を仰いでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ喜びを普段の生活から把握してその人に合った支援をしています。カラオケであったり、塗り絵又はお経であったりしますが、その人にあった楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見、秋には紅葉など季節感を肌で感じられることを計画して家族も同行して出かけられるよう努めています。希望などを聞きながら、ランチ喫茶店でモーニングを楽しんだりして支援しています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にあわせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けれるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族様に届くように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見たり窓から花を眺めたりして過ごせるように支援しています。寒い季節にはホームコタツを敷き、アットホームな雰囲気でも過ごせるよう工夫しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々に、自由にカーペット、椅子など持ち込むなどして気楽に過ごせるように支援しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物、又思い出の写真など自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中で過ごせるように工夫しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の「もてる力が発揮できる」と掲げているように利用者の身体状況に合わせて安全にまた生活の質が低下しないよう工夫をしている。		